

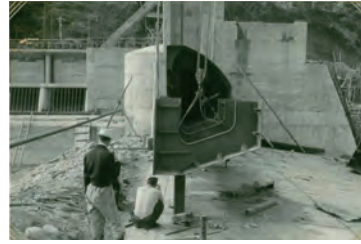
沿革 ※国内の動き

昭和28年(1953)
 昭和29年(1954) 7月
 昭和30年(1955) 1月
 昭和32年(1957)
 昭和34年(1959)
 昭和37年(1962)
 昭和43年(1968)
 昭和48年(1973)
 昭和49年(1974)
 昭和50年(1975)
 昭和51年(1976) 10月
 昭和52年(1977) 2月
 昭和53年(1978) 3月
 7月
 8月
 昭和54年(1979)
 昭和55年(1980) 2月
 4月
 昭和56年(1981)
 昭和60年(1985)
 平成23年(2011) 3月
 8月
 平成24年(2012) 11月
 平成25年(2013) 1月
 6月
 7月
 平成27年(2015) 4月

早月川沿岸土地改良区

早月川電力

蕨輪頭首工(取水口)着工
 早月川沿岸土地改良区設立
 初代理事長赤間徳寿就任
 早月川沿岸土地改良区設立認可・設立
 県営かんがい排水事業早月川地区事業着工(導水路ほか)
 第2代理事長 石坂豊一就任
 蕨輪頭首工完成
 国より施設管理受託
 第3代理事長齋木久治就任
 県営かんがい排水事業早月川地区事業完成
 水力発電事業構想が持ち上がる
第1次オイルショック 以後原子力発電発電所開発が進む
 農山漁村電気導入促進法施行規則改正へ単独にて陳情・運動を実施
 早月川電力株式会社設立
 初代社長 齋木久治
農山漁村電気導入促進法施行規則の一部を改正する省令公布
 土地改良財産他目的使用申請許可
 農山漁村電気導入計画認可
 水利使用申請許可
 工事計画認可
 早月発電所建設着工
第2次オイルショック
 完成検査合格(土木設備)・通水
 発電所使用前検査合格
 営業運転開始
 第2期発電所計画構想
 第2期発電所計画凍結
東日本大震災
再生可能エネルギー特別措置法成立
 第2期発電所計画再検討実施・決定
 水利使用申請許可
再生可能エネルギー固定買い取り制度開始
 再生可能エネルギー発電設備認定
 工事計画届提出
 新早月発電所建設着工
 新早月発電所営業運転開始



蕨輪頭首工(洪水吐ゲート)工事



事業開始当初の事業概要書



発電所建設工事



ランナ



発電機吊り込み作業



水圧管路敷設作業

Company Profile

つくり、つくる。

水力で再生可能エネルギーを作り、
 持続可能な未来を創る。

ごあいさつ

北アルプス剣岳を源とする早月川は、明治時代に来日した土木技師ヨハネス・デ・レーケとともに活躍したローウェンホルスト・ムンデルが「これは川ではない、滝だ」と言わしめるほどの急流であり、古くからかんがい用水及び水力発電に利用されてきました。

かんがい用水については、4月～6月の豊富な雪解け水にて恩恵を受ける反面、梅雨時期の洪水による堤防の決壊、取水口の破壊、7月～8月の渇水期の水不足による争いが絶えなかったことから、これらの問題解決のため、取水口の合口化を図る「国営早月川農業水利事業」により葦輪頭首工・導水路が整備され、続いて「県営早月川沿岸用水改良事業」にて安定的に各用水へ分水する幹線用水路が整備されました。

各事業により、農業生産性の向上が大きく図られる一方、土地改良区組合員は工事費の地元負担費用及び施設の維持管理費用の負担が重くのしかかることとなりました。さらに、高度経済成長の過程において農業労力は他の産業への流出により、農業体質が著しく弱体化し始めることとなりました。この事態の打開のため、土地改良区は費用負担の軽減方法として農業用施設の有効落差を利用した発電所建設を計画しました。

当初、発電事業主体が農業関連団体であること、また、既存の電力会社以外の発電計画としては規模が大きく、最大出力の規制をはじめ数々の規制が複数の省庁にまたがり、計画実行までには難航を極めることとなりました。規制緩和のため、関係省庁への交渉を何度も重ねました。偶然にも第一次石油危機による燃料費高騰による火力発電依存からの見直しによって水力発電も今一度見直され、それに伴い最大出力規制が当初の2,000kW未満から緩和される等、発電所建設の諸条件が整ったことから、昭和51年、土地改良区が出資する日本初の株式会社である「早月川電力株式会社」を設立し昭和55年には「早月発電所」の営業運転を開始いたしました。以来、当社は、水力発電事業を通じステークホルダーでもある土地改良区組合員に対しては、農業用水の維持管理費の負担軽減を図ることにより、日本の農業及び食料安全保障の一助となっていると自負しています。

また、昨今の農業を取り巻く厳しい環境に対する対応に加え、政府の温室効果ガス削減、持続可能な開発と持続可能性を持った社会の実現に向け、水力発電を通じて社会により一層貢献していく所存です。

今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 石坂 求



創業者 齋木久治像

発電施設紹介

早月発電所



ランナ

水車ビット内部

余水管路



発電所全景



ヘッドタンク



早月発電所

取水位（最大時） 204.000m
 放水位（最大時） 127.822m
 総落差（最大時） 76.178m
 有効落差（最大時） 47.250m
 最大出力 6,000kW
 最大使用水量 15,180m³/sec
 年間発電電力量 22,337MWh
 水車型式 立軸カプラン水車
 発電機 立軸三相交流同期発電機
 水圧管路延長・内径 174.241m φ1.800~4.300m鉄管（斜長）

新早月発電所



発電機及び補機



発電所制御盤など



新早月発電所

取水位（最大時） 203.883m
 放水位（最大時） 188.700m
 総落差（最大時） 15.183m
 有効落差（最大時） 13.200m
 最大出力 1,300kW
 最大使用水量 11.6m³/sec
 年間発電電力量 7,100MWh
 水車型式 立軸カプラン水車
 発電機 立軸三相交流同期発電機
 水圧管路延長・内径 397.172m FRP管 φ2.200m



遠方監視装置



ランナ

会社情報

企業理念

水力発電事業を通じて日本の農業競争力を高めるとともに、地域・地球の一員として持続可能かつ安心安全な社会の実現を目指すために行動する。

概要

社名 早月川電力株式会社
 Hayatsukigawa Electric Power Corporation
 創立 昭和51年(1976)10月30日
 資本金 5,000万円
 代表者 代表取締役 石坂 求
 株主 早月川沿岸土地改良区(100%)
 事業内容 水力発電事業及びそれにかかわる一切
 供給先 北陸電力株式会社
 事業所 本社 〒936-0883 富山県滑川市野町1684番地3
 葦輪頭首工管理事務所 〒936-0821 富山県滑川市葦輪343

